

日本学術会議会長談話

大村智北里大学特別荣誉教授のノーベル生理学・医学賞受賞、梶田隆章東京大学宇宙線研究所長・日本学術会議連携会員のノーベル物理学賞受賞を祝して

この度、大村智北里大学特別荣誉教授がノーベル生理学・医学賞を、梶田隆章東京大学宇宙線研究所長・日本学術会議連携会員がノーベル物理学賞を、それぞれ受賞されたことを、心からお慶び申し上げます。また、現役の連携会員である梶田先生の受賞を、日本学術会議会長として、大変誇りに思います。

大村先生は、自然界の微生物から有用な物質を探索し、産学連携の共同研究により、薬剤の開発など実用化につなげる取組を続けてこられました。今回の受賞は、抗生物質エバームекチンを発見し、抗寄生虫薬イベルメクチンの開発につなげたことが理由です。この発見は、「顧みられない熱帯病」の一つでもあり、失明や視覚障害を引き起こすオンコセルカ症（河川盲目症）などの特效薬として、アフリカや中南米、南アジアなどで感染症に苦しむ多くの人々を救いました。世界的に感染症対策への関心が高まる中、この功績は大変意義のあるものです。

梶田先生は、素粒子ニュートリノ研究の開拓者であり、平成14年にノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊氏の研究を継承され、研究グループを率いて素粒子ニュートリノの観測と研究を続けてこられました。今回の受賞は、観測が極めて難しく、長い間その性質が謎であった素粒子ニュートリノに質量があることを証明したことが理由です。この証明は、これまでの素粒子物理学の常識を覆す歴史的なものであり、今後、物理学に飛躍的な発展をもたらし、宇宙の成り立ちや物質の起源の解明へ道が開かれることが期待されます。

大村先生、梶田先生には、今後も、引き続き研究を続けて業績を積み重ねていただくとともに、後進の育成や学术界・社会に対する有意義な発信にも力を発揮していただきたいと思います。

本年のノーベル賞では、生理学・医学賞と物理学賞という二つの賞を日本の科学者が受賞し、また、物理学賞については二年連続での受賞となりました。これまで日本が多くのノーベル賞受賞者を輩出してきたことは、受賞者の類まれな才能と努力の結果であるとともに、日本の科学研究の高い水準や研究者の層の厚さを世界に示すものであり、研究環境の整備や人材育成の成果でもあります。我が国が、引き続きこのような素晴らしい成果を上げ続けていくためには、地道な研究やリスクの大きな研究など、多様な基礎研究の芽を育てていくことや、独創的で多彩な若手研究者の育成に力を入れていくことが重要です。

日本学術会議は、引き続き、更なる日本の科学技術の発展のため力を尽くしてまいります。

平成27年10月14日

日本学術会議会長 大西 隆